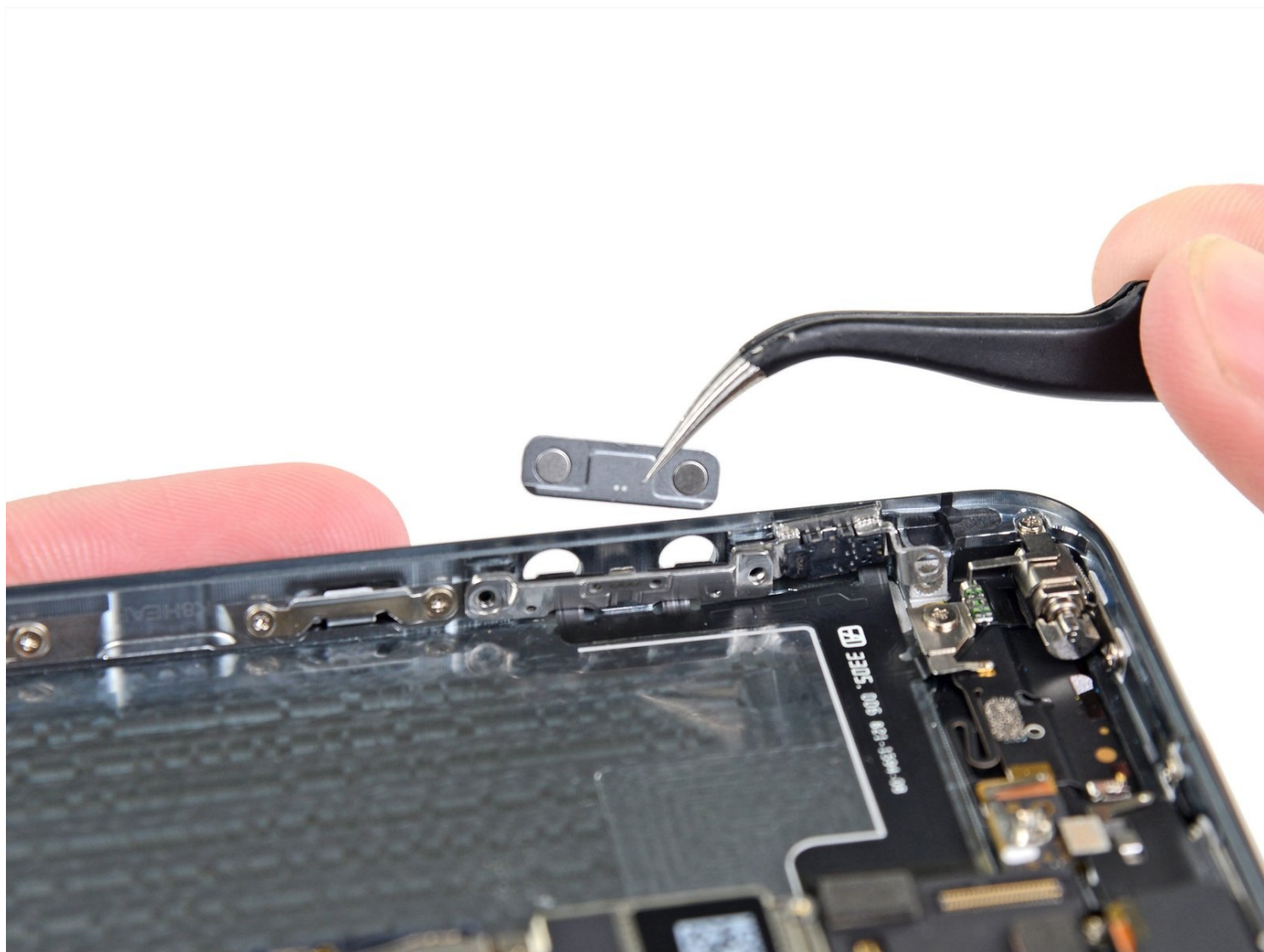




iPhone SEのボリュームコントロールの交換

iPhone...

作成者: Sam Goldheart



はじめに

iPhone SEのリングスイッチとボリュームボタンのボタンカバーを交換するにはこのガイドを使用してください。このガイドでは実際のスイッチではなく、カバーのみ交換します。

このガイドではバッテリーを取り外す必要があります。バッテリーを固定する接着ストリップは再使用不可ですので、作業を開始する前に交換用接着ストリップを手元に準備してください。代わりに両面テープを使ってバッテリーを固定することもできます。バッテリーはデバイスにしっかりとハマりますが、テープがガタツキを防ぎます。

ボタンカバーは iPhone 5s の部品と共通です。



ツール:

- [Anti-Clamp](#) (1)
- [iOpener](#) (1)
- [P2 ペンタローブドライバ](#) (1)
- [#000 プラスドライバ](#) (1)
- [プラスチックカード](#) (1)
- [iFixit開口ツール](#) (1)
- [ハンドル付き吸盤](#) (1)
- [スパッジャー](#) (1)
- [ピンセット](#) (1)
- [万能ハサミ](#) (1)



部品:

- [iPhone 5s/SE \(1st Gen\) Volume Button](#) (1)
- [iPhone 5s/SE \(1st Gen\) Case Button Set](#) (1)

手順1 — ペンタローブネジの取り外し



⚠ iPhoneのバッテリー残量を25%以下まで消費された状態で作業を始めましょう。充電されたリチウムイオンバッテリーはダメージを与えると引火したり爆発する恐れがあります。

- 作業を始める前にiPhoneの電源を必ず切ってください。
- Lightning コネクタの両側にある3.9 mmのペンタローブネジを2本外します。

手順2 — ディスプレイガラスの補強



- フロントガラスが割れている場合、ガラスに透明な補強テープを貼りましょう。作業中ガラスが飛び散ったりして怪我をしないようご注意ください。
- 画面全体を何重にも貼り、しっかりと固定します。
 - ① テープを表面に貼ると、画面を持ち上げた際に画面構造を保ってくれます。

⚠ 修理作業中はガラスの破片が飛び散り、目に入ることがないように保護メガネを装着してください。

手順3 — ディスプレイの分離方法



- ① 次の手順では、本体からディスプレイを外します。ディスプレイはガラスのスクリーンとメタルクリップが付いたプラスチック製のベゼルからできています。
- この作業でどんなツールを使ってもディスプレイ全体を本体から完全に取り外してください。
 - スクリーンが離れてきたら、第1番目の画像にあるように、プラスチック製の開口ツールをフレームとメタル製本体の間に差し込み、ケースからメタルクリップを外します。
- ★ ディスプレイベゼルが外れた本体を再組み立てする際は、デバイス本体を密封するためにプラスチックベゼルとガラスの間に薄い接着タブを付けることもできます。

手順 4 — リバースクランプの使用方法



- ① 次の2つの手順では、デバイスの開講作業を簡単にするために開発されたツール、リバースクランプの使い方を紹介します。リバースクランプを使用しない場合は、この2つの手順をスキップして別の方法をご覧ください。
- ② リバースクランプの詳細な使用方法については、[こちらのガイド](#)をご覧ください。
- 青いハンドルを後ろ側に引いて、クランプのアームをロック解除します。
 - iPhoneの右端もしくは左端上にアームをスライドして乗せます。
 - 吸盤カップを、ホームボタンすぐ上のiPhoneの下端付近に装着します。上部に一つ、下部に1つずつ取り付けます。
 - 両側のカップをしっかりと押し付けて、取り付けたい位置に装着します。
- ③ デバイスの表面が滑りやすく、リバースクランプがしっかりと装着できない場合は、[梱包用テープ](#)で表面を覆ってから、強いグリップを作ることができます。

手順 5



- 青いハンドルを後方に引き、リバースクランプのアームのロックを解除します。
 - ハンドルを時計回りに360度回転させ、カップが両側をストレッチするまで回し続けます。
 - ① 両側の吸盤の位置が合っていることを確認してください。位置がずれてきた場合は、吸盤を少し緩めてアームの位置を合わせてください。
 - クランプで十分な隙間が作れたら、スクリーンのプラスチックベゼルの下にオープニングピックを挿入します。
 - ① クランプで十分な隙間が作れない場合は、さらに接着面に熱を当てて、クランプを1/4程度時計回りに回してください。
- ⚠ 一回ごとの作業で1/4以上回さないでください。クランプをまわしたら数秒待ってください。リバースクランプの効果を待ってから、作業を続けてください。**
- 次の2つの手順はスキップしてください。

手順 6 — 手動による開口方法



- リバースクランプをご利用にならない場合は、フロントパネルを持ち上げるため、シングルタイプの吸盤カップを使います。
- カップをしっかりとホームボタン上部のスクリーンにしっかりと装着させます。
- ① カップの吸盤がスクリーンにしっかりと装着していることを確認してください。

手順7ー フロントパネルアセンブリを持ち上げます



⚠ フロントパネルにはクリップが付いており、デバイス本体部分と幾つかのリボンケーブルで繋がっています。ここでの作業の目的はクリップを外し、ケーブルの接続が外れる程度まで本体を開口することです。破損を防ぐために、ゆっくりと丁寧に作業を進めてください。

① 吸盤カップが隙間なくホームボタン付近のフロントパネルアセンブリにしっかりと装着しているか確認してください。

- iPhone を片手でしっかりと抑えながら、吸盤カップを少しずつ引き上げて、本体リアケースからフロントパネルのホームボタン端を引き離します。
- 吸盤カップを引き上げながら、プラスチック製の開口ツールで、ゆっくりとリアケースの端からフロントパネルアセンブリをこじ開けていきます。

⚠ 時間をかけてゆっくりと同じ力加減で作業します。このフロントパネルアセンブリは数あるデバイスの中でも特に頑丈に装着されています。

手順 8



⚠ リアケースからフロントパネルアセンブリを完全に外さないでください。幾つかのリボンケーブルが本体上部と繋がった状態にします。

- 吸盤カップの持ち手(ノブ)を緩めて、吸盤を外します。
- スクリーンから吸盤カップを外します。

手順 9 — Touch IDケーブルブラケットの取り出し



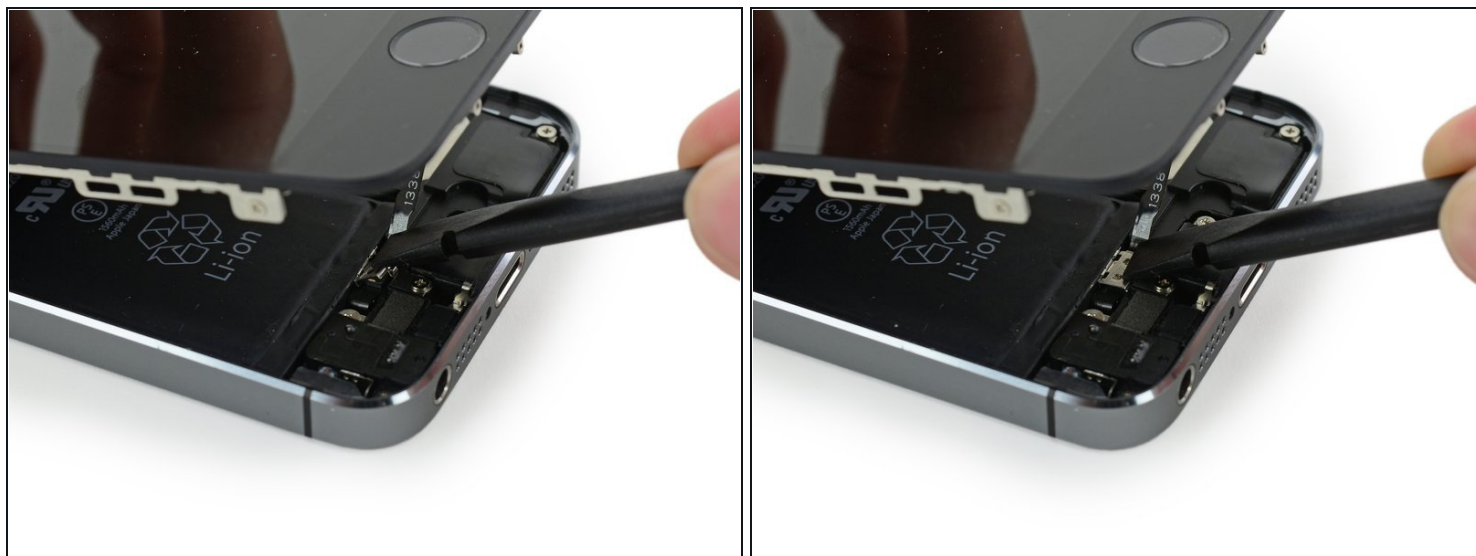
- ホームボタンケーブルを覆うメタル製ブラケットが取り出せる程度まで本体を開きます。
- ⚠ 本体を大きく開きすぎないで下さい。ホームボタンケーブルやホームボタンケーブルが差し込まれたソケットにダメージを与えてしまうことがあります。ケーブルが緩んでいる状態にします。ーケーブルが伸びきっていたら、開きすぎです。
- 新規購入時のオリジナルのホームボタンアセンブリではTouch IDが使用できます。ケーブルの破損後、新しいホームボタンを取り付けた場合、ホームボタンとしての機能は回復できますが、**Touch ID**は使用できなくなります。
 - スパッジャーの先端を使ってブラケットを外し、ピンセットで取り出します。
- ① 次の2つの手順は再組み立てに関連しています。再組み立てを始めるまではこの2つをとばして手順12から作業を続けます。

手順 10



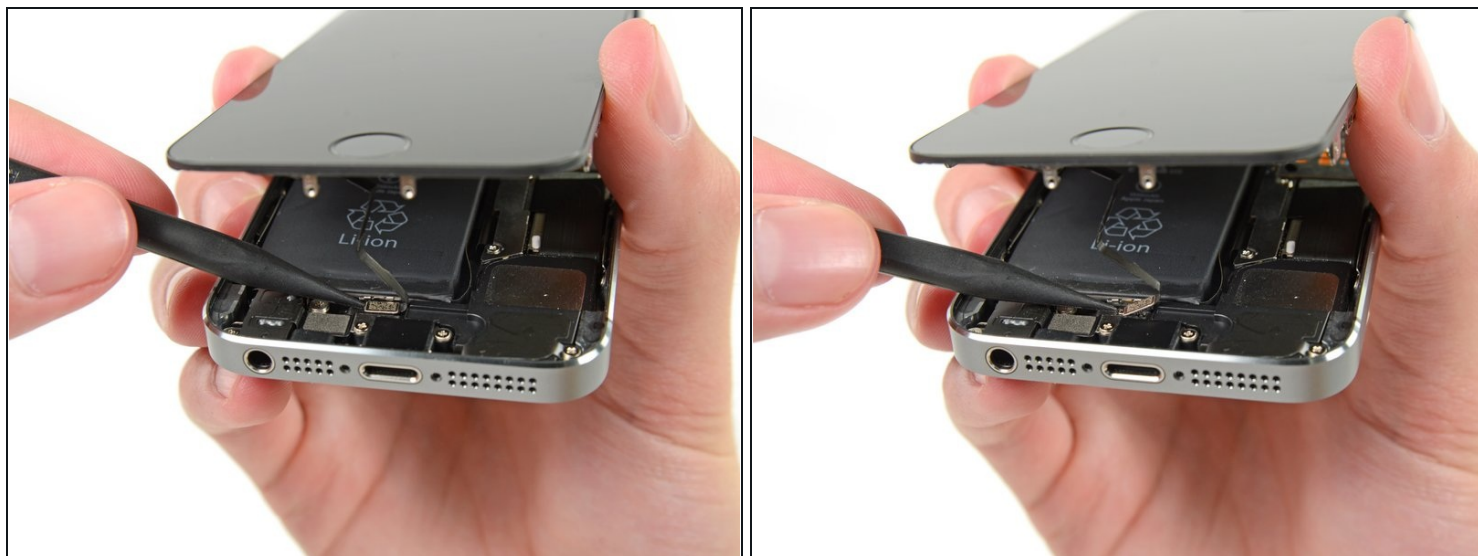
- ★ 再組み立ての際は、Touch IDケーブルのブラケットを再装着してください。ブラケットの先端をバッテリーとメタル製タブの正面にあるTouch IDケーブルコネクタの間をスライドします。下部はコネクタ上に取り付けてください。
- ★ ブラケットの上部をTouch IDケーブルコネクタ上で左側から右側にスライドします。

手順 11



- ★ 再組み立ての際は、スパッジャーの平面側先端を使って、Touch IDケーブルブラケットの正面端をケーブルコネクター側に折り曲げます。
- ① ブラケットが折りたためない場合は、ブラケットを取り出してケーブルコネクター上に正しく装着するように再度スライドしてください。

手順 12 — ホームボタンケーブルコネクタの接続を外します。



- スパッジャーの先端を使って、ソケットからホームボタンケーブルコネクタの接続を外します。

⚠ ソケットからケーブルコネクタのみ外します。ソケット全体に接触しないでください。ソケットは接着剤で固定されたケーブル上に搭載されているため、慎重に扱わなければソケット自体を破損してしまうことがあります。

手順 13 — デバイス本体の開口



- コネクターの接続が外れたら、本体上部を蝶番のようにして、アセンブリのホームボタン先端をリアケースから引き上げます。
- ディスプレイを約90度で開き、作業中固定するため、ディスプレイの後ろに衝立を用意します。
- 作業中、輪ゴムでディスプレイを固定してください。これはディスプレイケーブルに過度な圧力が加わらないようにするためです。

① 急な場合は、未開封の飲用缶を使ってディスプレイを固定してください。

手順 14



- 基板に留められたメタル製バッテリーコネクターのブラケットから1.6 mm #000プラスネジを2本外します。

手順 15



- iPhoneからメタル製バッテリーコネクターのブラケットを外します。

手順 16



- スパジヤーの平面側先端を使って、基板上のソケットからバッテリーコネクターの接続を丁寧に取り外します。

⚠ バッテリーコネクタのみ持ち上げてください。基板上のソケットや基板には接触しないでください。基板上のコンポーネントにダメージを与えてしまうことがあります。

手順 17



- 基板上に留められたフロントパネルアセンブリケーブルブラケットから次のネジを取り出します。
- 1.7 mm #000プラスネジー1本
- 1.2 mm #000プラスネジー1本
- 1.3 mm #000プラスネジー1本
- 1.7 mm #000プラスネジー1本
- ① この1.7 mmネジは磁化スクリュードライバーに対応していません。取り外しの際は紛失に十分ご注意ください。

⚠ 再組み立ての際には上記手順にあるネジの位置を十分に確認してください。謝って右側下のネジ穴に1.3 mmのネジや1.7 mmネジのどちらかを装着してしまうと、電話が正しく機能せず、ロジックボードに致命的なダメージを与えてしまうことがあります。

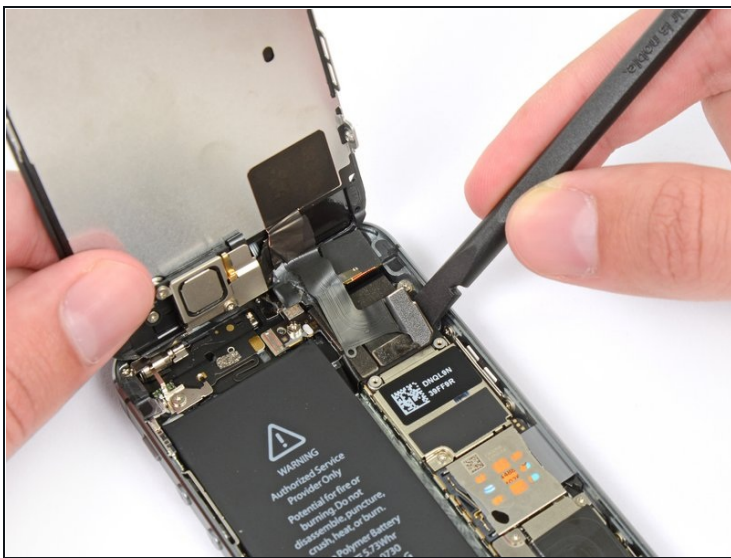
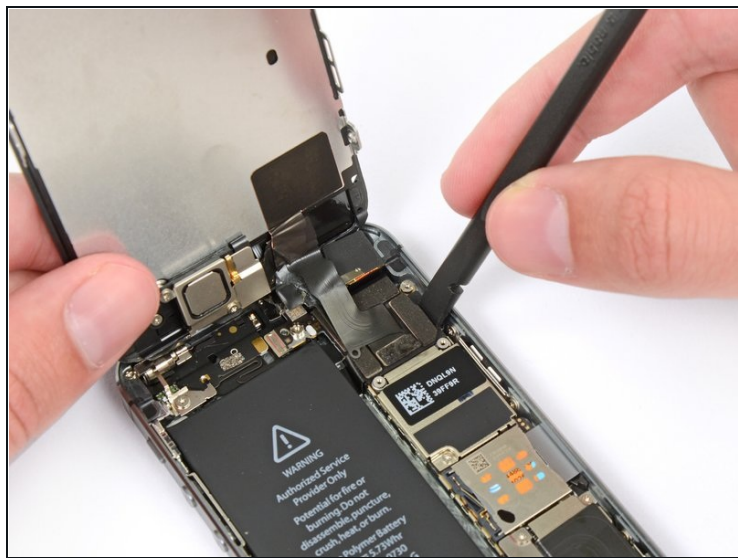
⚠ ネジを固く締めすぎないようにご注意ください。簡単にネジが留まらない場合は、誤ったサイズのネジを装着している可能性があります。無理に留めないでください。

手順 18



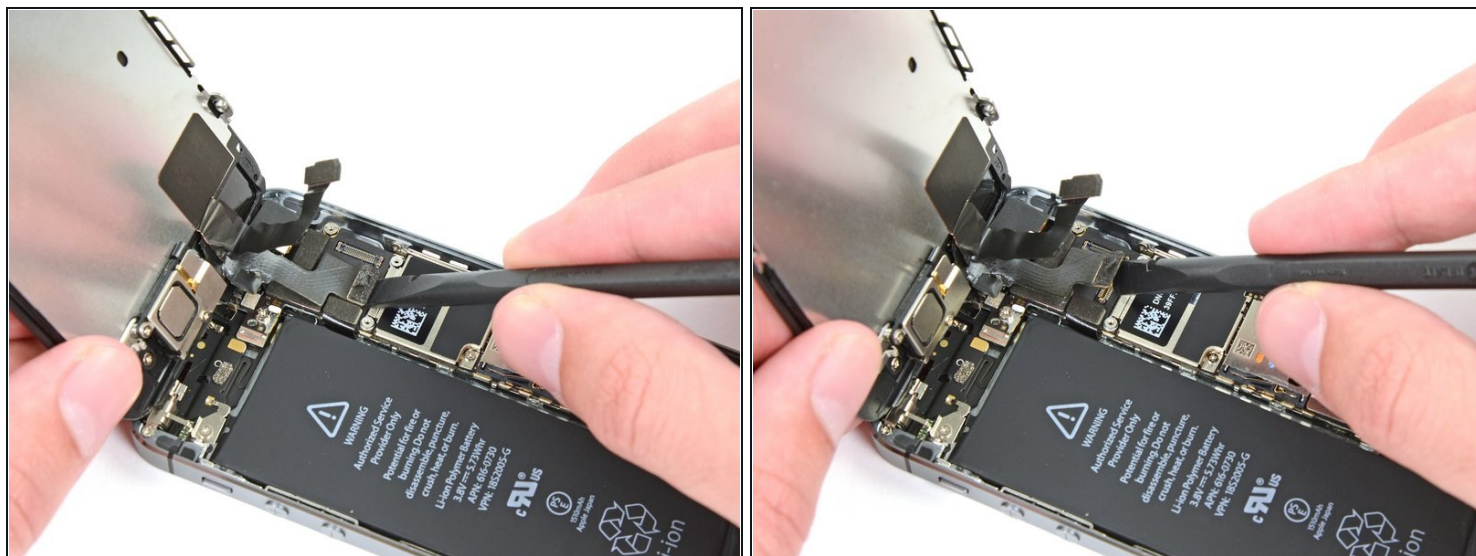
- 基板からフロントパネルアセンブリのケーブルブラケットを取り外します。

手順 19



- スパッジャーや爪先を使って、正面カメラとセンサーケーブルの接続を外します。

手順 20

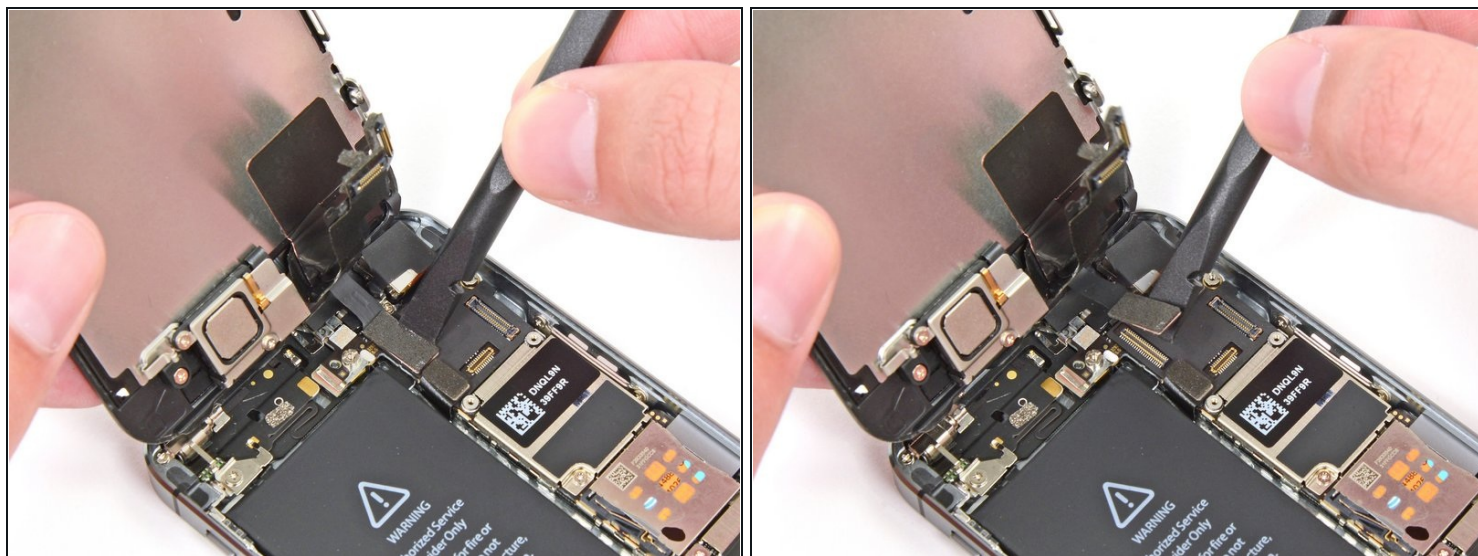


⚠ この手順でケーブルの接続を外したり、取り付けたりする前に、バッテリーの接続が外れているか必ず確認してください。

- LCDケーブルコネクターの接続を外します。

★ デバイスを再組み立てする際にLCDケーブルがコネクタから外れてしまうことがあります。これは電源を入れた時、黒い画面に白い線が入る状態の原因となります。この症状がでたら、単純にケーブルをコネクタに再接続をして再起動してください。再起動方法はバッテリーを一度外して、再度取り付けます。

手順 21



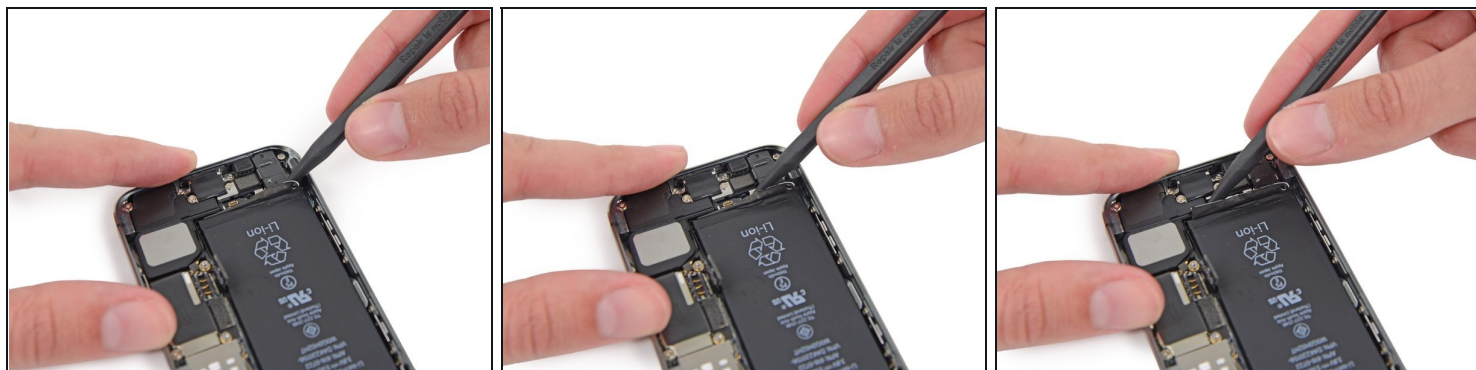
- 最後に、デジタルライザーケーブルコネクターの接続を外します。

手順 22



- リアケースからフロントパネルアセンブリを外します。

手順 23 — バッテリー



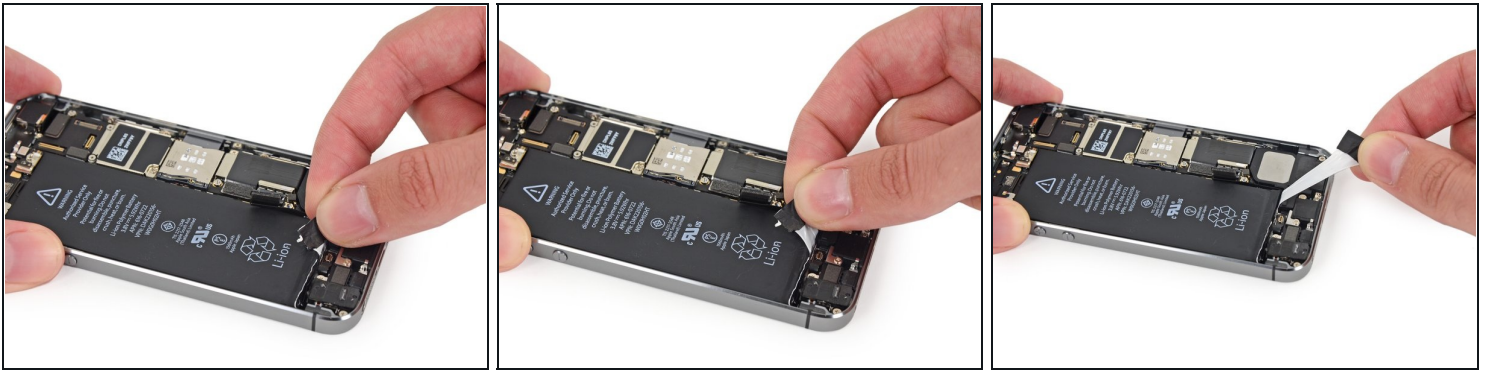
- スパジヤーの先端をバッテリーとヘッドフォンジャックの間に差し込み、バッテリーの接着タブを広げます。

手順 24



- 本体からバッテリーの接着タブを取り出します。
- 2本の白い接着タブの間にある黒色の接着タブを切り取りタブを2本にします。

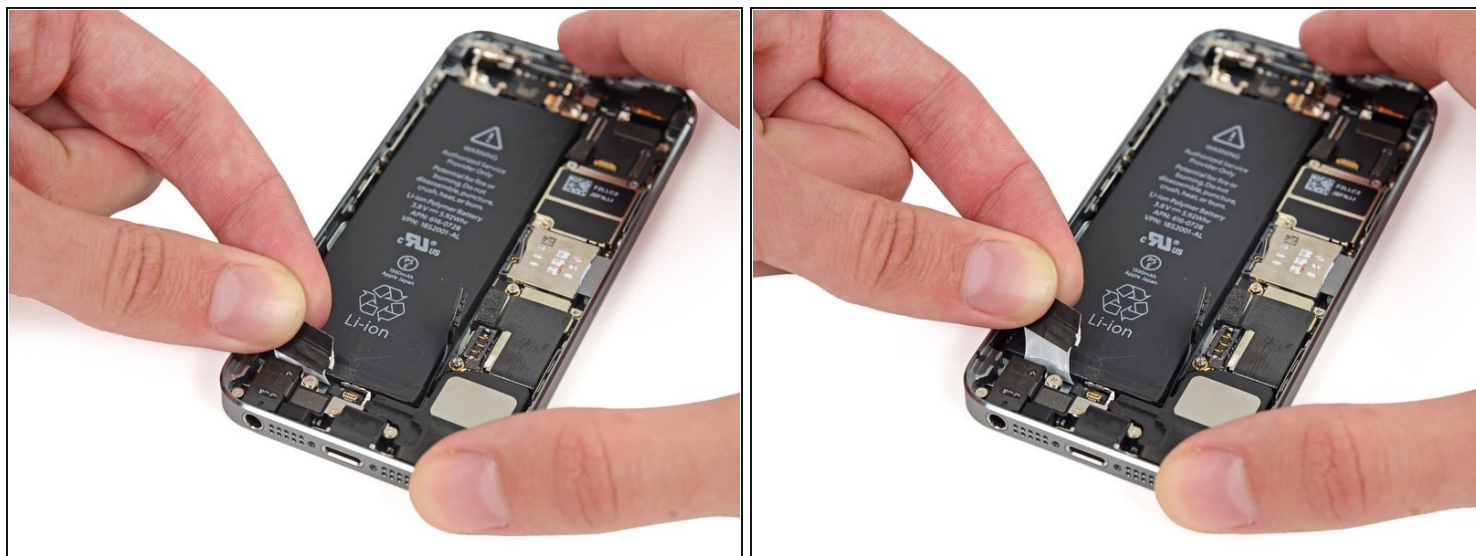
手順 25



⚠ 接着タブをできるだけ平らにして、シワが入らないように注意しながら作業を進めます。シワが入ったタブは、簡単に絡まり引っ張ると切断してしまうことがあります。

- バッテリー接着タブのうち1本を、バッテリーからiPhone下側に向けて丁寧に引っ張ります。タブの白い部分を引っ張ると黒い部分は取れることがあります。
 - バッテリーとリアケースの間からタブが外れるまで同じ強さで引っ張ります。最も効率良い角度は、約60度以下で引っ張ることです。
 - iPhoneの内部コンポーネントに引っかからないように注意してください。
- ① タブは何倍にも伸びます。そのためタブが外れるまで、伸びきったタブをバッテリー付近で持ち替えます。

手順 26



- 2本目のタブも同じ手順で取り出します。
- タブを2本取り出せたら、次の2つの手順をスキップしてください。
- ① バッテリーの下で接着剤が切断して取り出せない場合は、高濃度（90%以上）のイソプロピルアルコールを数滴、破れた接着剤の部分の電池の縁の下に塗ります。
- アルコール溶液が接着剤を弱めるため、約1分待ちます。ツバキの平らな部分を使って、バッテリーをゆっくりと持ち上げます。
- ⚠ バッテリーを力づくで引き抜かないでください。必要に応じてイソプロピルアルコールを数滴注入して、接着剤を弱めます。バッテリーをこじ開けて変形させたり、穴を開けたりしないでください。
- ⚠ ロジックボード側からこじ開けないでください。デバイスを破損してしまいます。
- 音量コントロール付近の左上をこじ開けないでください。[音量ボタンのリボンケーブル](#)にダメージを与えてしまうことがあります。
- 他の方法を参照したい場合は、次の手順に進んでください。

手順 27 — ケースからバッテリー用接着ストリップを外す代用方法



- バッテリーがリアケースに付着したままの場合は、[iOpener](#)を用意するか、ヘアドライヤーでバッテリーの真後ろのリアケースを加熱します。気持ちよく触れられる程度の温度になります。

⚠ iPhoneを加熱しすぎると、バッテリーが発火する恐れがあります。

⚠ バッテリーを力づくで引き抜かないでください。バッテリーをこじ開けて変形させたり、穴を開けたりしないでください。

⚠ ロジックボード側からこじ開けないでください。デバイスを破損することがあります。

⚠ 音量コントロール付近の左上をこじ開けないでください。[音量ボタンのリボンケーブル](#)を破損することがあります。

① 代用品として、デンタルフロスでバッテリーをリアケースから切り離すこともできます。もしくはデンタルフロスの代わりに、12弦セットの0.009E弦のような、ギターの弦を使うと、より耐久性があります。

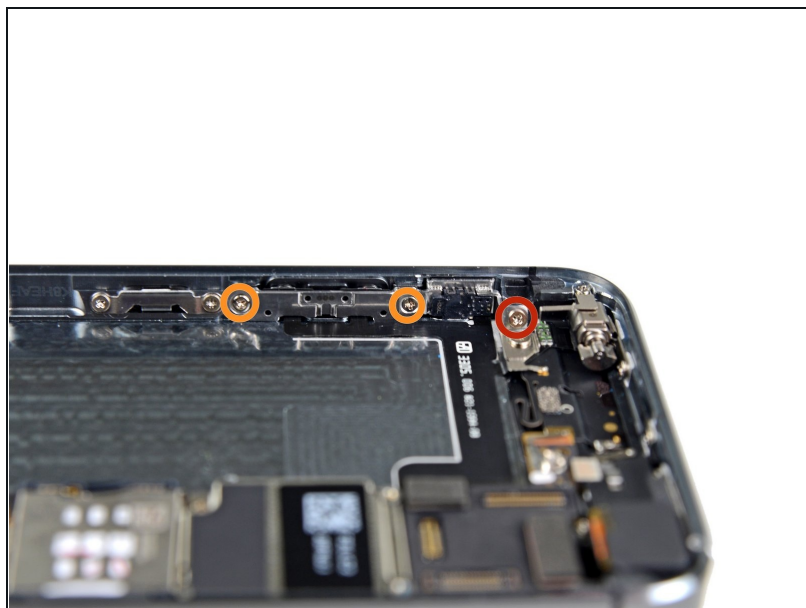
- フロスや糸をバッテリー上端の角の後ろに通し、両端を合わせて折りたたんだ布で巻いて、均等に引っ張ります。

手順 28



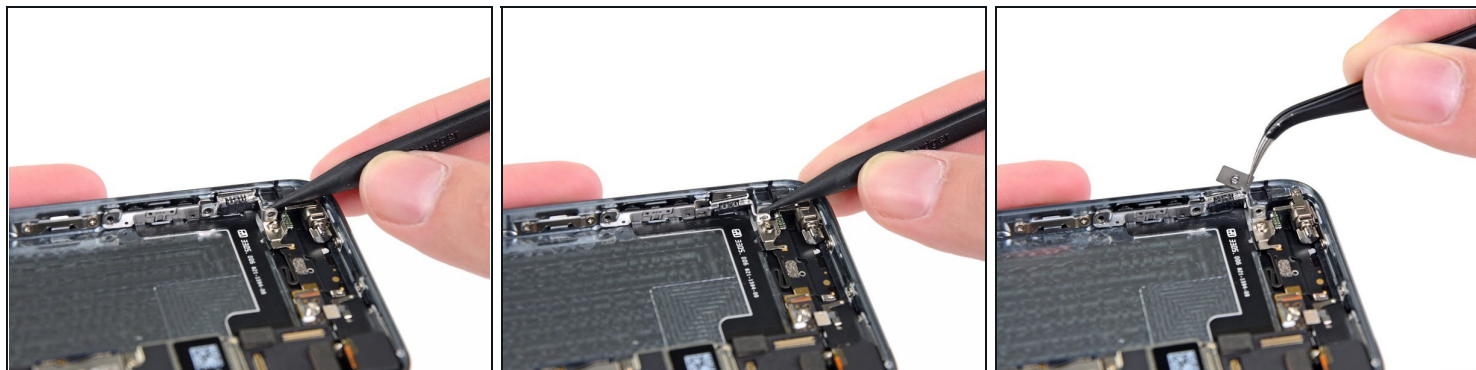
- リアケースからバッテリーを取り出します。
- ① 交換用バッテリーにプラスチックのスリーブが付いている場合は、交換作業前にリボンケーブルから引き抜いてスリーブを外してください。
- ☑ デバイス内にアルコール溶液が残っている場合は、新しいバッテリーをインストールする前にきちんと拭き取るか、自然乾燥させてください。
- ☑ 交換用バッテリーを装着前に、バッテリーコネクタをロジックボードのソケットに一時的に再接続してください。バッテリーが定位置に装着できるか確認します。
- バッテリーを装着して、接続を外してからデバイスの再組み立てを継続してください。
- ☑ 新しいバッテリーに接着剤がインストールされていない場合は、接着剤ストリップを交換するために、[このガイド](#)を参照してください。
- ☑ 再組み立てが完了したら[ハードリセット](#)を行ってください。これは幾つかの問題を防ぐとともに、トラブルシューティングを簡単にしてくれます。

手順 29 — ボリュームコントロール



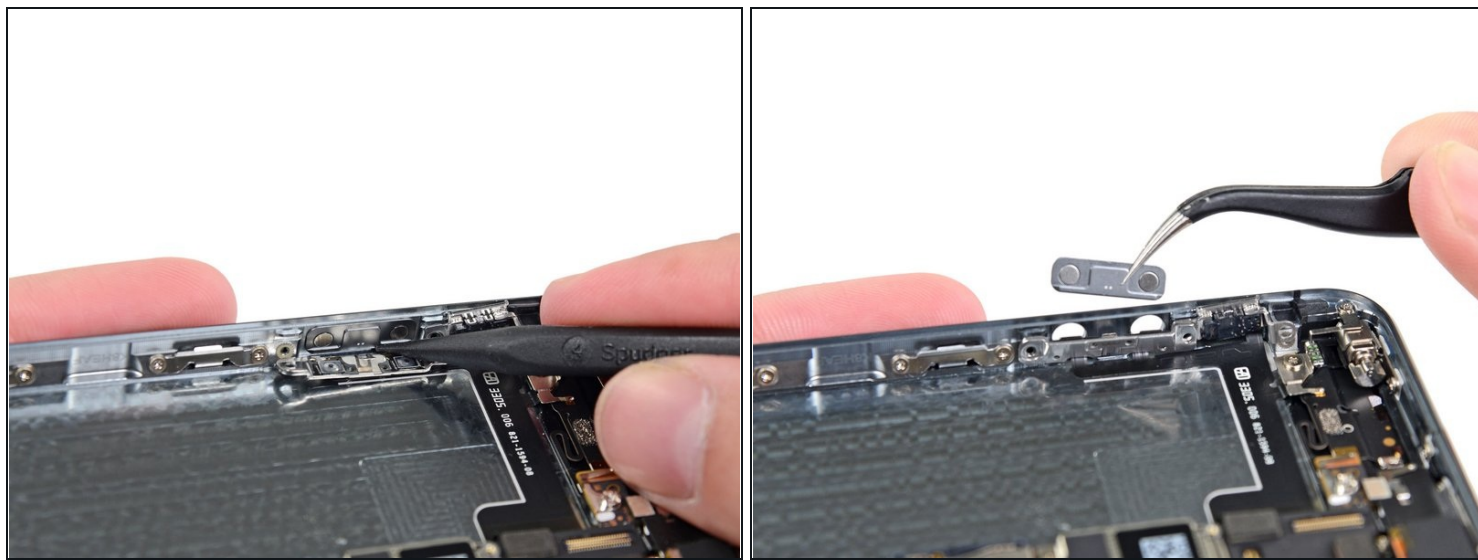
- 背面ケースのサイドに留められたボリュームボタンとリングースイッチから次のネジを取り外します。
 - 1.9 mmフィリップスネジ—1本
 - 1.6 mmフィリップスネジ—2本

手順 30



- スパッジャーの先端を使って、リングースイッチブラケットをケースの端から外します。
 - リングースイッチをリングースイッチブラケットとケースの間から取り外します。
- ☒ 再組立て時の方向に関する注意：ボタンの赤い線は上方になければなりません。リングースイッチボタン裏の溝はケーブルに付いているメカニカルスイッチと同じ位置で嵌合していなければなりません。

手順 31



- スパッジャーを使いボリュームボタンプラケットをリアケースの端から離します。
 - ボリュームボタンを取り外します。
- ☒ 再組立ての際、'+' (ボリュームアップ) ボタンはリングスウィッチに近い方の穴にある事を確認してください。

デバイスを再組み立てする際は、これらのインストラクションを逆の順番に従って作業を進めてください。